

科目名	教育実習事前事後指導 [Introduction to Teaching Practice]				
区分	教職科目	選択必修		単位数	1
対象学科等	農 学 部	対象年次	4～	開講時期	通年
授業形態				時間割番号	VED3001
責任教員	降旗 信一 [FURIHATA Shinichi] (農学部)				
研究室		メールアドレス			
概要					
教育実習の概要と心構え(「教育実習の手引き」より)					
1.教育実習の概要					
<p>教育実習は4年次に2週間または3週間の日程で行なわれる教職課程の総仕上げとなる実習です。原則として、自分の母校である中学校か高校で教育実習をします。</p> <p>期間は、多くの場合5月下旬から6月になります。それは、受け入れ側の学校が学期の初めや学期末は忙しいこと、長期休業期間中には実習が行えないことなどから、学期が始まってある程度落ち着いた時期に教育実習生を受け入れようとするからです。そのため、一部の学校は9月や10月に教育実習期間を設けている場合もあります。</p> <p>重要なことは、こちら側の都合で日程を決められないということです。実習先の学校が指定してきた期間の通りに教育実習に行かなければなりません。4年生になってすぐの卒業研究のテーマ決めなども重なる時期ですので、あらかじめ所属学科の指導教員の先生に理解を求めておく必要があります。</p> <p>教育実習は大学の単位認定がなされますが、そのほとんどは実習先の中学校・高校の先生(指導教諭)の指導で実習が行なわれます。この指導教諭の先生は、教育実習生を指導することで特別な報酬がもらえるわけではなく、基本的にボランティアでの指導ということになります。中高の指導教諭の先生方は、将来の教員を育てるために奉仕してくれるわけです。そこで、「免許がほしいだけであって、教員になる気はない」という学生の指導はしたくないと指導教諭のほとんどが考えているということを十分理解した上で、教育実習に臨んで下さい。</p> <p>また、生徒から見れば、教育実習生も「先生」の一人です。生徒たちの貴重な勉学の時間を犠牲にして、「教える練習をさせてもらう」という感謝の心を持って実習をすることも忘れないで下さい。</p>					
到達基準					
<p>この大学で教職課程を履修しはじめた頃には、まだ気持ちが定まっていなかった人も多かったと思います。現に、周りの学生の中には、2年生後期になるまでの間に、教職課程の履修を諦めた学生もいたはずですが、教職課程を履修するかどうかは、本人の自由意志によるものですから、いつ辞めてもなんの問題もありません。</p> <p>ただし、それは今までの教職課程が授業の履修だけだったからです。教職科目は受講生が全員いなくなるということでもないかぎり、受講者が増えても減っても教職担当教員には何の影響もありません。</p> <p>しかし、教育実習は大きく違います。それは、母校とは言え、東京農工大学とは別の機関・組織を巻き込むことだからです。しかも、教育実習の受け入れ先となる中学校高校はあくまでも善意で教育実習をさせてくれるのです。そこで、軽い気持ちで教育実習をすることにして、途中で辞退をするようなことは許されません。教職課程の履修を続けて、教育実習に行くことにするのかどうかの決断は、後戻りの効かない重要な決断だと考えて下さい。これから先に進む人は、ホンキで教職課程を履修する人だけです。このような意味で、教育実習を行うための準備を万全にすることがこの授業の到達基準となります。</p>					
授業内容					
2.利点と難点					
<p>教育実習は、教員免許取得のためには必須ですから、免許がほしい人はいやおうなく教育実習に行かなくてはなりませんが、教育実習から得られる経験は人生全体にとっても貴重なものです。今まで、教えられる側からしか見てこなかった教師という仕事を反対側から見ることができます。1時間の授業のために、その何倍もの時間を教師は使って準備をしているのです。上に書いたことと少し矛盾しますが、教師になるつもりがない人にとっても、教育実習は貴重な体験となるはずです。</p> <p>教育実習をすることの難点もたくさんあります。なんといっても、忙しい4年次に2週間から3週間はまるまる教育実習に充てなければならぬことがあります。遠くの母校での実習の場合はもちろんのこと、たとえ都内や近郊での教育実習の場合でも、実習期間中はアルバイトはもちろん他の勉学活動はできないことを覚悟しておいて下さい。さらに、教育実習の受け入れ先との連絡や、実習前の準備、実習後のお礼や実習レポート作成など、付随する作業もたくさんあります。</p> <p>そうした意味で、教育実習をしようとする学生はホンキで教職に取り組む覚悟が必要です。</p>					

3. ホンキで教育実習を！

教育実習は後戻りできない。

ホンキの意味

教育実習まで進むつもりの方のホンキの方は、社会人としての責任をきちんと行動で示すことが求められます。たとえアルバイトでも会社に勤めた以上は、適切な言葉使い・時間厳守・きちんとした身だしなみ・挨拶の励行などが重視されます。教育実習でも同様です。実習先への連絡、訪問の際の服装髪型、時間厳守など、「学生レベル」では通用しません。社会人としての規律正しい態度を行動で示して下さい。

本当はホンキじゃない人に

現実には、教職課程を履修して教員免許を取って卒業する学生のほとんどは教職に就くわけではないことも事実です。ですから、すべての学生にホンキで教職を目指すことまでは求めません。将来の保険として教員免許を取りたいと考えることもまちがいでありません。

しかし、上に述べたように、教育実習は実習先の指導教諭をはじめ、多くの人々の協力と犠牲(ちょっと大げさか)によって可能になっていることを常に心に置いて、少なくとも教育実習期間中はホンキで先生になるつもりで取り組んで下さい。「ホンキのフリ」でもかまいませんが、「フリをする」ことはホンキの人と同様に行動することです。

4. 個人面接

教育実習を履修するかどうかについて迷っている人は、各学部の教職専任教員と面談をして、自分の意志を再確認して下さい。

工学部は、全員について個別面談を実施しますので、教職専任教員にメールでアポイントを取って下さい。

最後に

「教育実習は総仕上げ」今が決断の分岐点。

「教育実習」に踏み出したらもう後戻りはできない。

履修条件・関連項目

教育実習を行うこと

テキスト・教科書

参考書

成績評価の方法

教育実習の事前に模擬授業を、事後に報告会を行います。その内容で評価します。

- (1) 模擬授業の指導案(模擬授業3日前までに提出すること)
- (2) 教育実習レポートA4で4ページ以内
- (3) 教育実習報告会

教員からの一言

キーワード	
オフィスアワー	授業の前後
備考1	皆さんから提出された指導案やレポートは、後輩のためにデータベース化して翌年度以降の授業で活用させていただきます。
備考2	
参照URL	

科目名	教育実習事前事後指導 [Introduction to Teaching Practice]				
区分	教職科目	選択必修		単位数	1
対象学科等	工 学 部	対象年次	4～4	開講時期	1 学期
授業形態				時間割番号	V0226
責任教員	三浦 巧也 [MIURA Takuya] (工学部)				
研究室	3 号館 3 階 311 室	メールアドレス			

概要

【目的と概要】

教育実習は、教職科目及び専門科目等で身に付けた教育に対する専門的な知見を実際の教育現場で生かし、実践的知識を習得する上で大変重要な機会となる。事前指導においては、授業実践のみならず生徒への影響を真摯に受け止め、教育実習に対する心構えや技能を身に付けさせる。そして、実習後の反省と総括から、今後のキャリアに向けた展望をもつことができるようにする。

以下の日程で、年間3回ある教育実習オリエンテーションに参加していることが、この授業履修の条件となる。

- (1) 教育実習オリエンテーションⅠ(2年次の1月末)(2コマ分)
- (2) 教育実習オリエンテーションⅡ(3年次の10月下旬)(2コマ分)
- (3) 教育実習オリエンテーションⅢ(3年次の3月初め)(2コマ分)

到達基準

全体目標:

教育実習の事前指導では、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえで能力や適性を考えるとともに課題を自覚するために必要な意識と能力及び、態度を身に付ける。教育実習の事後指導では、一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積んだことにより、学校教育の実際を体験的・総合的に理解した上で身に付けた、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を再確認する。

(1) 事前指導・事後指導に関する事項

一般目標:

事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。

到達目標:

- 1) 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
- 2) 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。

(2) 観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項

一般目標:

児童生徒や学習環境等に対して適切な観察の方法と、教育実習校の児童生徒の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。

到達目標:

- 1) 児童生徒との関わり方を学び、その実態や課題を把握することができる。
- 2) 指導教員等の実施する授業を観察する方法を学び、事実即して記録することができる。
- 3) 教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
- 4) 学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うために必要な能力・態度を習得する。

(3) 学習指導及び学級経営に関する事項

一般目標:

大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。

到達目標:

- 1) 学習指導要領及び児童又は生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成することができる。
- 2) 学習指導に必要な基礎的技術(話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など)を身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。

<p>3)学級担任の役割と職務内容を理解している。</p> <p>4)教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童生徒と関わるための能力と態度を習得する。</p>	
<p>授業内容</p> <p>第1回:教育実習オリエンテーションⅠ-1(教師という職業のやりがい)</p> <p>第2回:教育実習オリエンテーションⅠ-2(教育実習希望校への依頼手続き)</p> <p>第3回:教育実習オリエンテーションⅡ-1(先輩から聞く教育実習報告)</p> <p>第4回:教育実習オリエンテーションⅡ-2(実際の教師から聞く教育実践報告)</p> <p>第5回:教育実習オリエンテーションⅢ-1(教育実習の心構え、服装、態度等)</p> <p>第6回:教育実習オリエンテーションⅢ-2(次年度から教師になる学生の教採報告)</p> <p>第7回:VTRを基にした教育実習の実際を知る、実習校との事前協議、実習日誌の使い方</p> <p>第8回:授業観察における記録のとり方、児童生徒との関わり方を学ぶ</p> <p>第9回:望ましい授業の展開を考える①(効果的な発問・板書方法を検討する)</p> <p>第10回:望ましい授業展開を考える②(評価及び教材を検討する)</p> <p>第11回:望ましい授業展開を考える③(児童生徒の自尊感情を育てる授業観を検討する)</p> <p>第12回:学習指導案に基づく模擬授業とピア評価および教員による講評</p> <p>第13回:教育実習の成果報告会</p> <p>第14回:教育実習を通しての生徒指導・学校運営等についての省察</p> <p>第15回:第1回～14回のまとめ及び、教職に向けての今後の展望</p>	
<p>履修条件・関連項目</p> <p>この授業は原則として2020年4月から2021年3月までに教育実習を行い、2020年度に卒業・免許取得見込みの学生が対象となる。 当該年度に教育実習を行うためには、</p> <p>①指定された教職科目がすでに履修済みであること</p> <p>②教育実習オリエンテーションに参加していること</p> <p>などの履修条件がある。詳しい内容については、教育実習ガイダンスでの指示に従うこと。</p>	
<p>テキスト・教科書</p> <p>特になし。</p>	
<p>参考書</p> <p>中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、生徒指導提要</p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>平常点評価(50%):授業での積極的な発言、ディスカッションでの発言を評価する。</p> <p>その他(50%):学習指導案の作成、模擬授業の準備及び実施内容を評価する。</p>	
<p>教員からの一言</p>	
キーワード	
オフィスアワー	
備考1	
備考2	
参照URL	